

未病ケアが得意な漢方を広め 幸せなお客さまを増やしていく

京都府京都市
一乗寺薬局



店主の荒木康子さん。「更年期の女性にはもっとハッピーに過ごしてほしい。私は、年齢的にも相談者として適役かなと思っています」



「中高年のダイエットもお任せください。やせるまでしっかりサポートします」とは、漢方アドバイザーの星野利美さん(中央)。



更年期女性に推奨している漢方薬。【●●名称は後送】は、骨を作る機能を活発にする漢方薬。

康子さん自身がバネ指腱鞘炎の一種やひどい痛で悩んだときも、漢方薬や薬膳、鍼などで改善できたそう。そうした経験から得た漢方治療の感動をお客さまに伝えたいという想いが、康子さんにはあるのです。

骨粗しょう症予防を柱に 地域の女性たちと交流

季節ごとの体調不良や加齢で起こり得る病気を察知し、問題解決の提案ができる薬局でありたいと、一乗寺薬局では、さまざまな講座を開講しています。特に、康子さんが気にかけているのが更年期の女性で、管理栄養士を招き「胃美人測定会」を定期的に開催しています。

女性ホルモンの分泌が低下する更年期以降は、骨を養う力が弱ってきます。女性は骨粗鬆症になりやすく、骨折から寝たきりや認知症へ進むケースも多いので、それを食い止めたいたいと康子さんは言います。

「人生をより長く元気に過ごすために、未病先防病気になる前に病気の原因をなくすことが得意な漢方を、上手に役立ててほしいと思っています」

DATA



一乗寺薬局
住所 / 京都府京都市左京区一乗寺染殿町3
☎ 075-781-3930
営業時間 / 10:00～19:00、定休日 / 木・祝祭日
アクセス / 市バス北8 一乗寺梅ノ木町下車すぐ
URL / <http://www.kanpou-soudan.net/store-1/>



明るく広々とした店内。春はひな祭りのディスプレイを展開するなどして、季節感を大事にしている。

顧客に送る「ばんだ通信」。季節の悩みに合った漢方薬を紹介したり、気功教室や講座のお知らせも掲載。



漢方素材も豊富に取りそろえ、効果効能や活用例などをわかりやすく表示。



「よくなりますよと、希望のある言葉がけをするのが私のやり方。心が温かくなるコミュニケーションを心がけています」(康子さん)



温かい声かけと漢方で お客さまの支えに

取材の間、何人かのお客さまが来店されました。

「勉強熱心で明るい康子さんに、全幅の信頼を寄せています」と話していたのは、80代のご夫婦。一乗寺薬局とは30年以上の付き合いで、月に1〜2回は夫婦で来店し、健康管理や体調の悩みを相談しているそうです。

一方、常連客の上田君代さん(68歳)は、脂質異常症、膀胱炎、パニック障害などを抱えながら主婦業をこなしています。

「漢方の見立てで、私は胃腸が虚弱で冷感性、『気』(生命エネルギー)が足りないそうです。それらを補う漢方薬を飲んでいると、なんとか寝込まずに毎日をおこなえます。検査数値もよくなりました」(上田さん)

康子さんは、地域の高齢者に何気ないあいさつや健康情報をメールで送る活動も続けているそう。「一人暮らしの高齢者も増えていきますから、温かいコミュニケーションをとることで支えになれると。お客さまを明るくしたい、幸せにしたいから私は漢方を学び続けているのかもしれないですね。漢方は、人間同士がつながるツールなのだ」と日々感じています。

ちよつと立ち寄って みたくなる薬局が目標

1976年に京都市左京区に開局した一乗寺薬局は、現在京都市内に4店舗を展開しています。大きな店舗構えの一乗寺薬局本店は、薬剤師の荒木康子さんをはじめ、女性スタッフが迎えてくれる温かみのあるお店。店内には、相談スペースやダーツコーナーなどもあります。

「ダーツは、中高年の方に気軽に体を動かしてもらおうと始めました。現在約100人が参加していて、高得点をとった方にはプレゼントも用意しているんですよ」と康子さん。

なかにはダーツだけをして帰る人もいるそうですが、まずはお客さまとかわりを持つことが信頼関係を築く第一歩だと康子さんは考えています。

一乗寺薬局が漢方を本格的に扱うようになったのは、荒木さん夫婦の息子がアトピーになったことがきっかけでした。「息子を通して、体は食べるものから作られるという『医食同源』、病気を治すには西洋医学と東洋医学のバランスが大事という『中西和合』の思想に共感し、東洋医学に傾倒していきました」